



はじめに

熊本県立第二高等学校長

那須 高久



本校のスーパーサイエンスハイスクール事業は、平成 15 年度に文部科学省から指定され、その後 3 期連続 13 年間の指定を受け活動を行ってきました。昨年度、第 4 期目の指定を受けるべく申請書を提出しました。しかし、結果は不採択となり経過措置 1 年間の指定となりました。

本年度に入り、第 4 期目指定に向けて準備を始めていた 4 月 14 日と 4 月 16 日に、益城町を震源とする最大震度 7 を記録した熊本地震が発生し、本校は益城町に近いことから大きな被害を受けました。4 月 15 日から 5 月 9 日まで休校を余儀なくされ、5 月 10 日に授業を再開しました。しかし、施設の被害が大きかったため、まず学年毎に授業再開、その後 2 学年分の教室の使用による変則的な授業を行い、1 学期間は 1 コマ 45 分の短縮授業を行うことになりました。SSH に関する事業も 4 月から予定をしていましたが、本格的に課題研究などを再開できたのは 6 月になってからでした。

このように学校の教育活動に大きな影響を受け、現在も実験室の使用に制限を受けていますが、工夫しながら取り組んでいます。また、研究成果を発表する機会も予定していた会場が使用できなかったりしたため、規模の縮小などをせざるを得ない状況となりました。

熊本地震は、私たちがこれまで経験したことがないような災害となってしまいましたが、学校が休校期間中、生徒たちは各地の避難所で自ら進んで積極的にボランティア活動を行ってくれました。ボランティア活動の意義については、折に触れ生徒たちに伝えていますが、実際の災害の場面でどのように動くか、また、どのように動くべきかについては、生徒各自がその場で判断し行動に移してくれました。主体的に動く一面を見せてくれたように思います。生徒たちの経験は、これから SSH で行っていく探究活動で生徒それぞれが考え判断し活動につなげていくための大きな財産となることでしょう。

本年度は、昨年度の事業内容を継続するとともに、第 4 期で行おうとしている探究活動にかかる科目の全学科への展開、また主体的学びを評価する評価法導入に向けた準備作業にも取り組みました。内容の詳細について本報告書にとりまとめています。本書をご覧ください皆様から忌憚のない意見をいただければ幸いです。

最後になりましたが、日頃よりご支援ご指導を賜っています文部科学省、科学技術振興機構、本校の運営指導委員、熊本県教育庁高校教育課の皆様、及び各関係諸機関の皆様にお礼を申し上げ巻頭のご挨拶とします。